

日産車体株式会社
2016年度 決算説明
(2017年3月期)



2017年5月

2016年度までの主な成果

[1] QCT(品質・コスト・納期)総合力で世界のベンチマーク工場となる(日産車体九州)

- 九州新工場の稼働開始とともに年間4車種の新車連続立ち上げ
- インフィニティ工場の認定を取得、北米初期品質調査(JDP-IQS)でトップクラスを継続
- 日産の国内車両工場初の3班3交替での確実な生産運営

[2] 多車種少量生産車のフレキシブル生産拠点となる(湘南工場)

- 車両生産の現地化が進む中で、再編を柱としたさらなる生産効率向上への取り組みを実施。
- LCV(小型商用車)の多様なニーズにフレキシブルに対応する生産の確立
- グローバル日産での工場別ランキングで上位の継続とプラントオブザイヤー受賞(2012年,2013年)
- 商用車NV150 ADのビッグマイナーチェンジ実現(安全装備:自動ブレーキを搭載)

[3] LCV海外展開事業の基盤を強化する

- 海外拠点開発・生産プロジェクトの準備業務を積極的に拡大
- 教育と実践の両面から海外サポート対応力の強化に取り組み、海外プロジェクトを遂行する体制を確立、LCVグローバル技術センターの開設、海外拠点への品質・原価の改善支援

[4] 生産台数と売上を積極的に拡大する

- お客様との直接対話を軸に、市場調査に基づくタイムリーな製品企画、迅速な商品化と積極的な販売支援で独自の活動を推進
- パトロールピックアップの商品力大幅向上により生産台数の増加に貢献、コンバージョン売上をおよそ4倍に拡大

決算サマリー

売上台数における乗用車の増加が大きく貢献し、増収増益となる

売上台数

昨年6月に生産を開始した北米向け「アルマーダ」の増加により、7.8%増の23.0万台

売上高

売上台数の増加により11.1%増の5,658億円

営業利益

台数増、合理化等により6.2%増の121億円

親会社株主に帰属 する当期純利益

退職特別加算金の計上、平成28年度税制改正の影響などにより、3.6%増の82億円

設備投資

マイナーチェンジによる商品力強化、生産設備の合理化及び改善などの投資を中心に約97億円

2016年度 通期決算

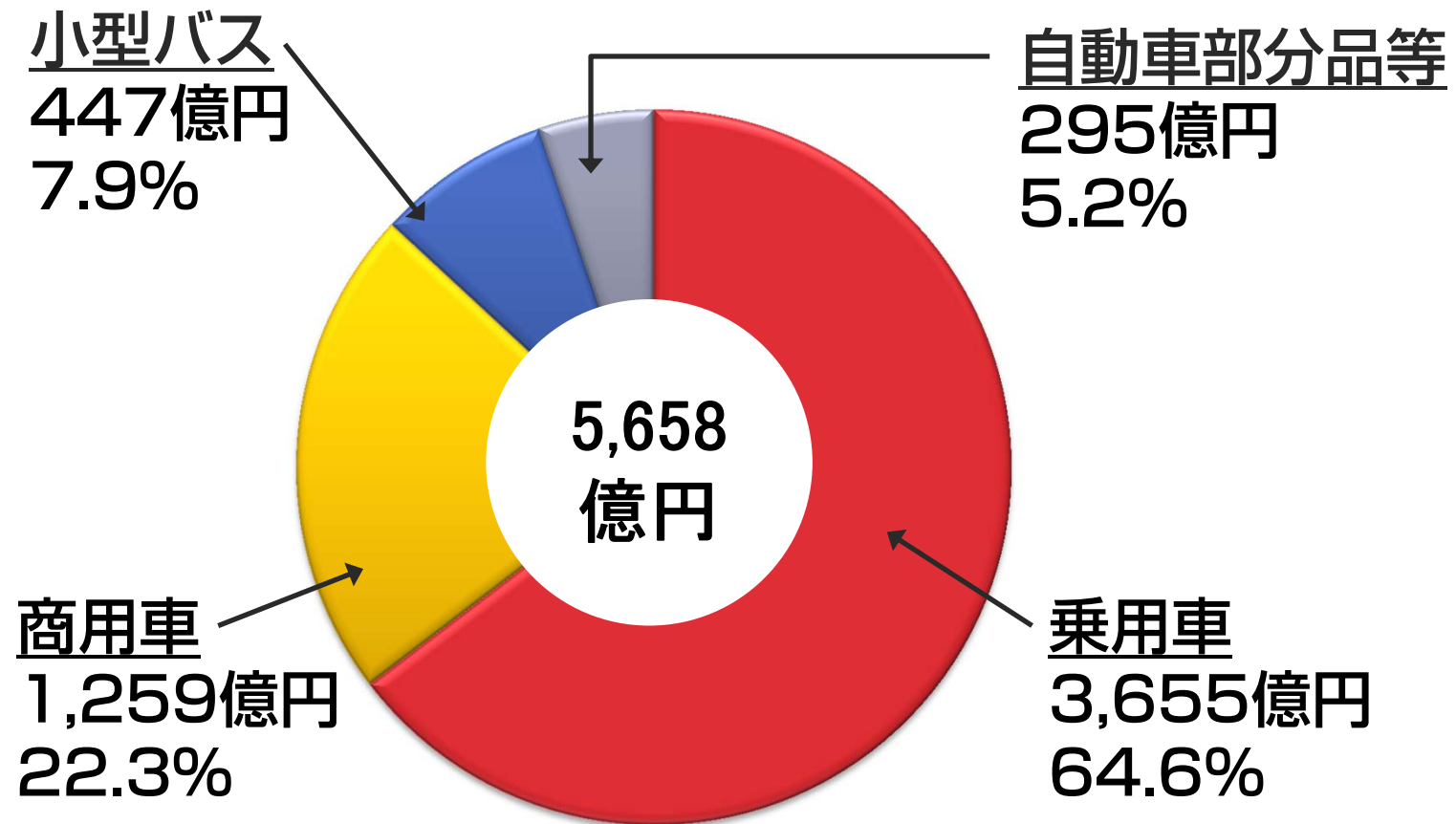
業績ハイライト

	2015年度 (2016/3)	2016年度 (2017/3)	増減額	増減率
売上高	5,094	5,658	564	11.1%
営業利益	114	121	7	6.2%
経常利益	119	127	7	6.2%
親会社株主に帰属 する当期純利益	79	82	2	3.6%

単位: 億円

2016年度 通期決算

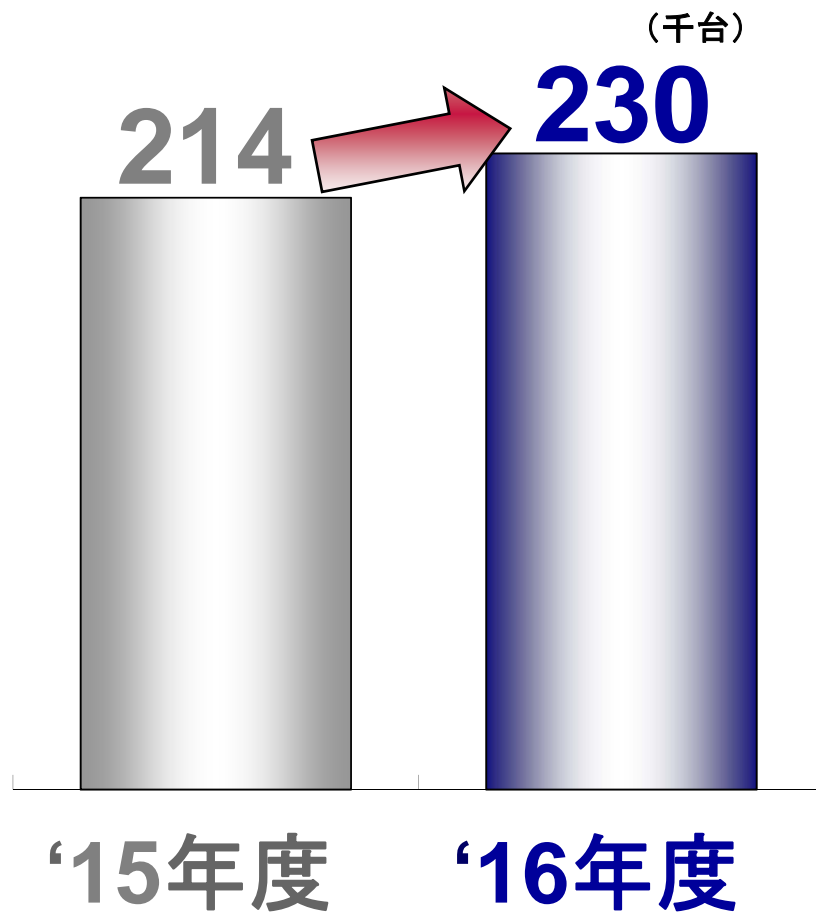
品目別売上高構成比



2016年度 通期決算

売上台数

売上台数は前期比7.8%増の230千台



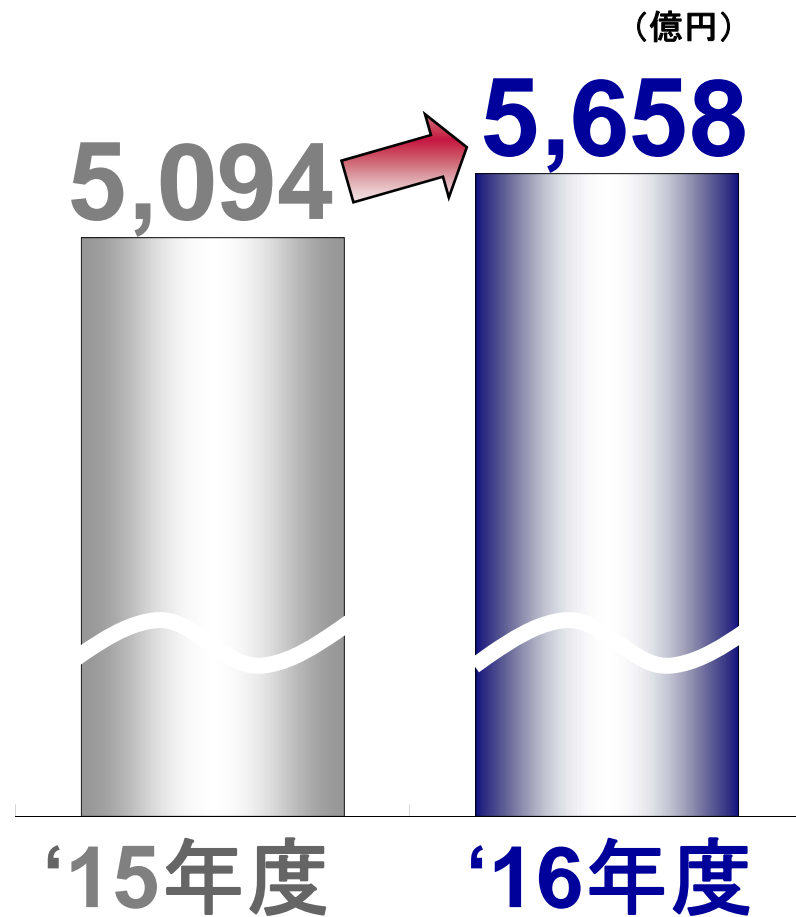
(千台)

	前期実績	当期実績	増減率
乗用車	103	120	17.2%
商用車	86	87	0.7%
小型バス	25	23	▲6.3%
合計	214	230	7.8%

2016年度 通期決算

売上高

売上高は前年同期比11.1%増の5,658億円



ARMADA
アルマーダ



PATROL
パトロール:Y62



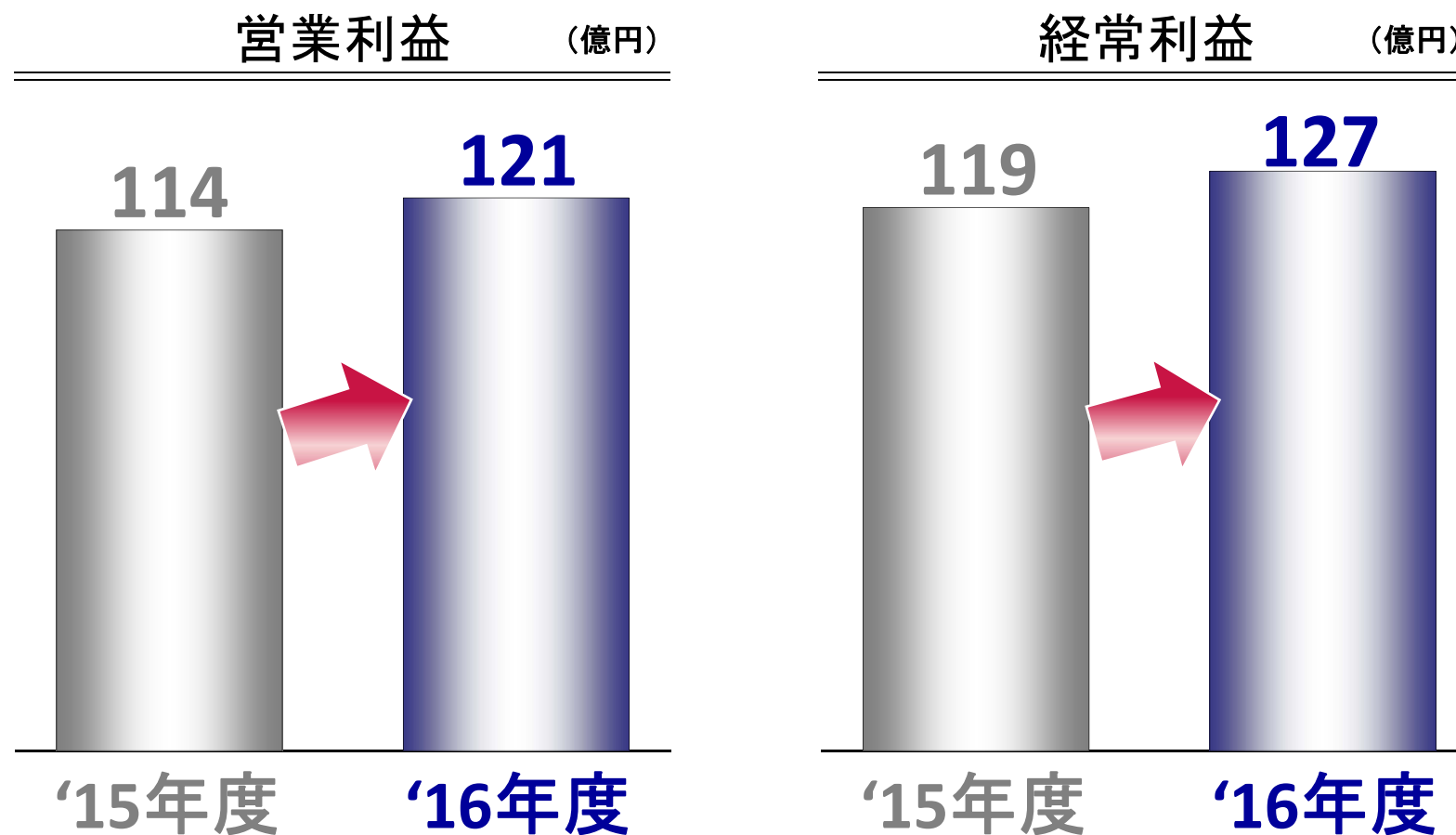
Infiniti QX80
インフィニティ QX80



2016年度 通期決算

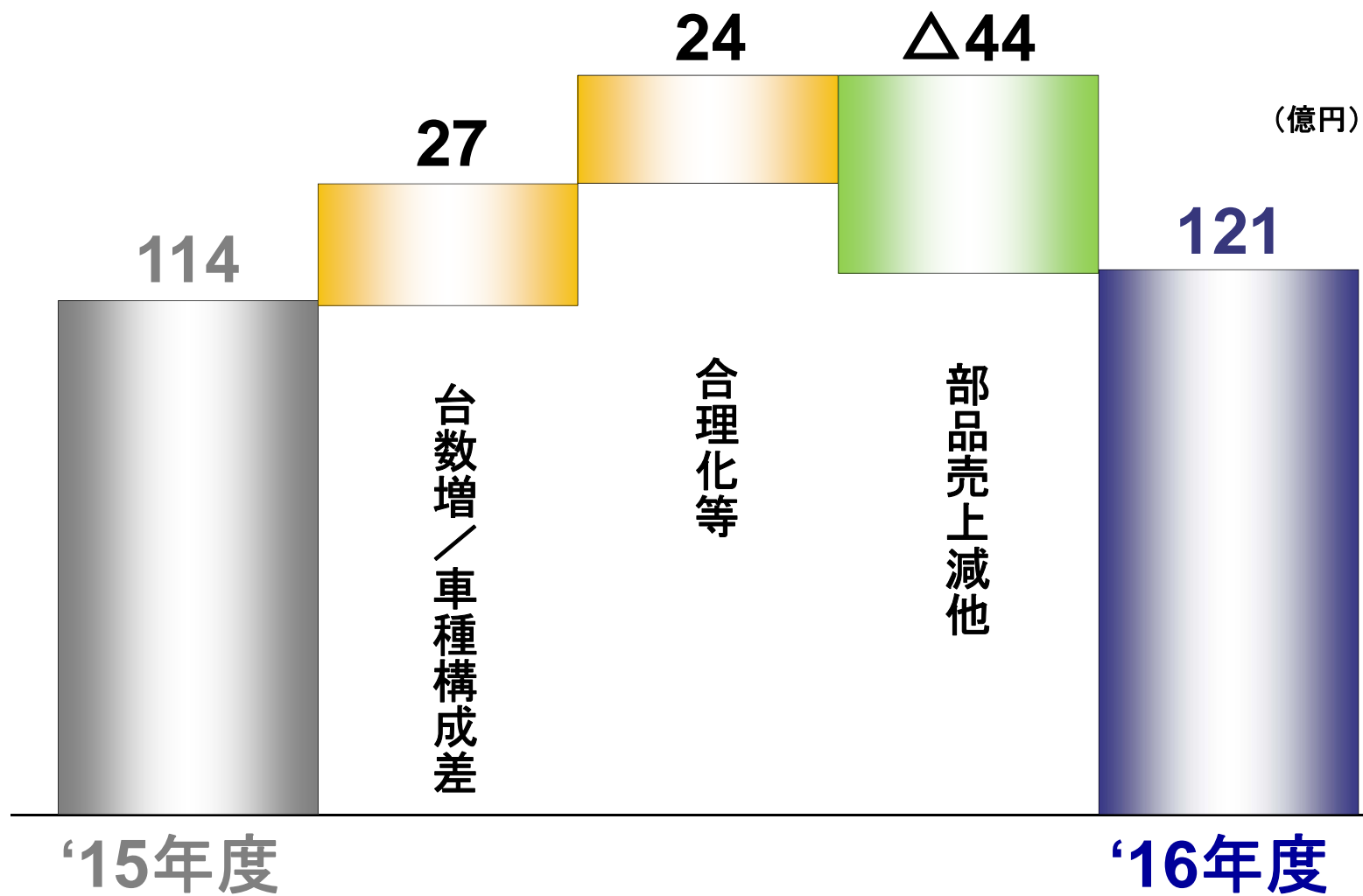
営業利益／経常利益

営業利益／経常利益とも前年同期を上回る



2016年度 通期決算

営業利益の増減要因

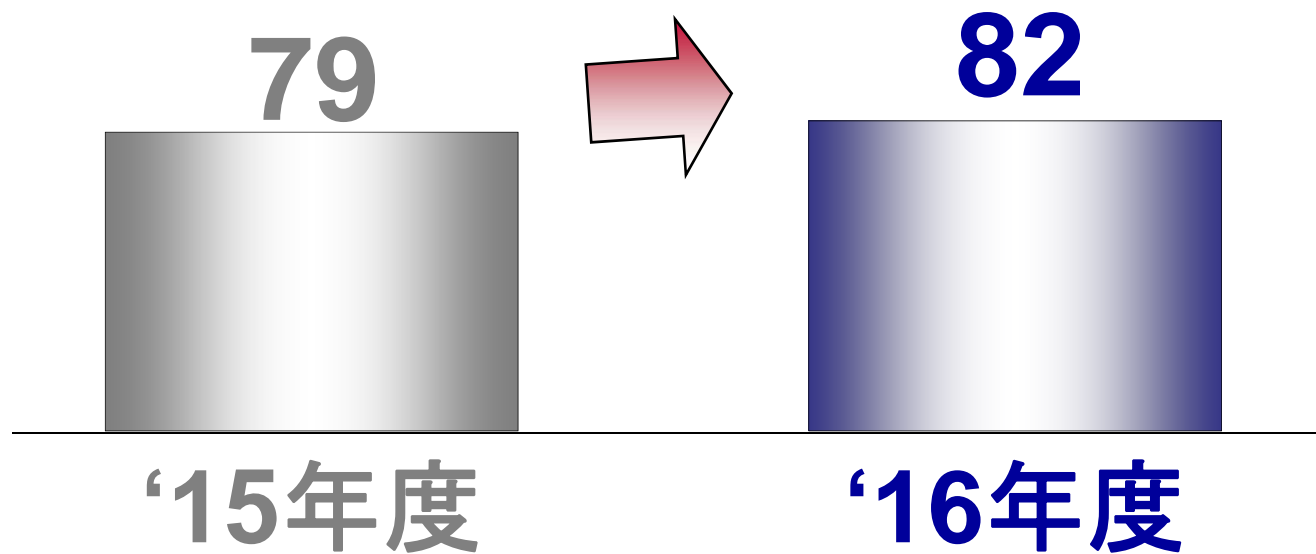


2016年度 通期決算

親会社株主に帰属する当期純利益

親会社株主に帰属する当期純利益は前期比3.6%増の82億円

(億円)





2017年度 連結業績見通し

2017年度以降の主な取り組み

＜自動車業界の環境変化＞

- 拡大する海外生産と横ばいが続く国内生産
- 安全、環境、利便性などの技術革新の加速

＜主な取り組み概要＞

次期中期経営計画基本方針

LCV・Frame車※を技術力の核とし、
高品質で魅力ある商品をお客さまにお届けすることで、
将来にわたる強靱な企業基盤を確立する。

※Frame車:トラックやバスに採用される頑丈な梯子フレームにパワートレーンなど走行機能搭載し、その上にキャビンを搭載する構造の車
当社製品:大型SUVのパトロール、インフィニティQX80,小型トラックのパトロールピックアップ、

3つの柱となる競争力の強化

- | | |
|--------------|---------------------------|
| 1. 商品の競争力 | 魅力ある商品による生産台数と売上の拡大 |
| 2. 工場の競争力 | 品質No1,お客様から信頼される工場 |
| 3. 技術・技能の競争力 | LCV・Frame車のモノづくりグローバル技術拠点 |

2017年度の業績予想

為替相場や株価の変動、中国を始めとするアジア新興国の景気下振れなど不透明ではあるが、増収増益を計画

	2016年度 (実績)	2017年度 (計画)	増減額	増減率
売上高	5,658	6,700	1,041	18.4%
営業利益	121	140	18	14.8%
経常利益	127	145	17	14.1%
親会社株主に帰属 する当期純利益	82	96	13	16.7%

単位:億円

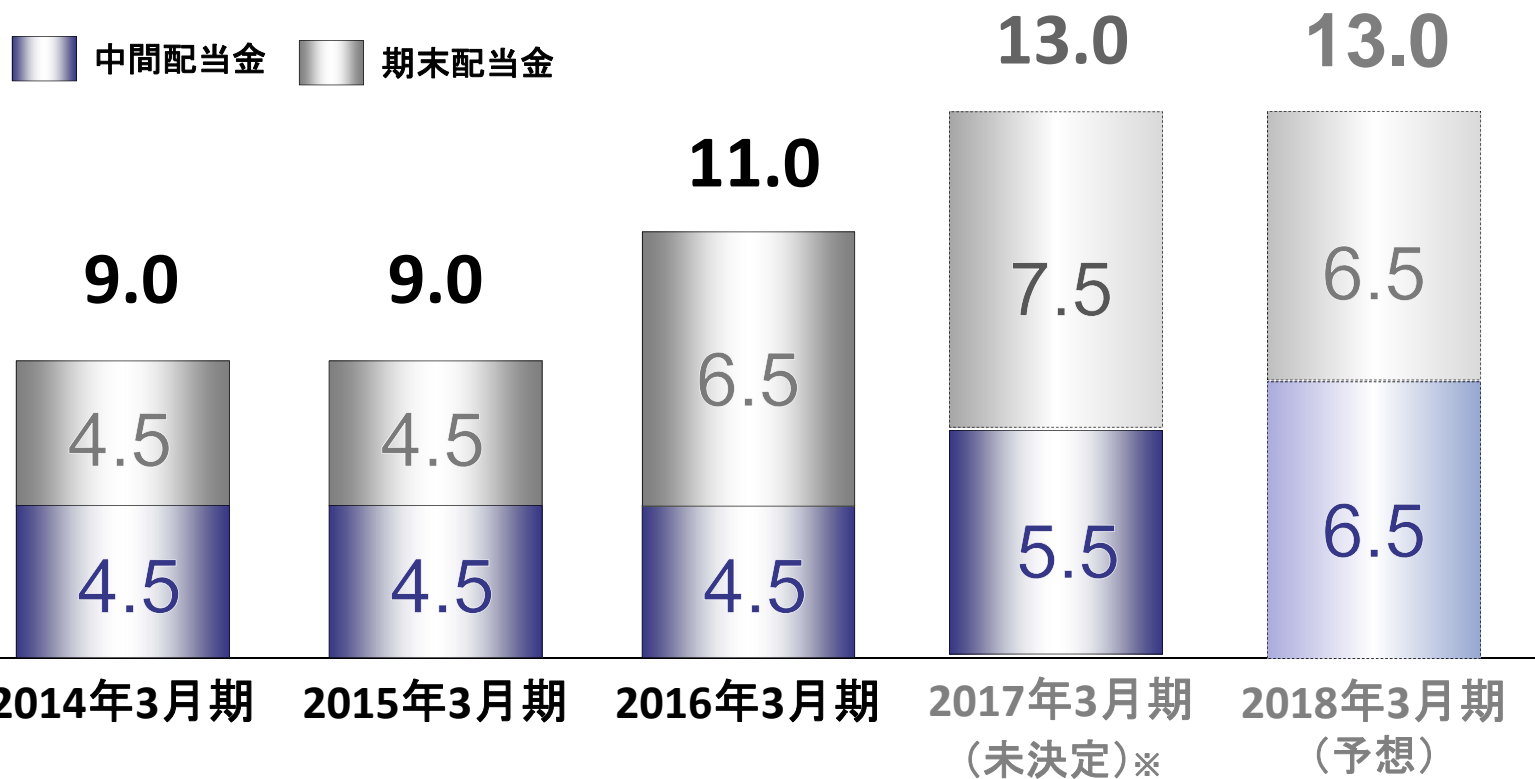


株主還元

株主還元

配当金

持続的成長に向け、継続的な安定配当を実施



※ 2017年3月期期末の1株当たり配当金は、2017年5月11日発表の決算短信に記載されている金額で、2017年6月28日開催の第94回定時株主総会で正式に決定されます。